日本が中国に勝つ方法　　飛び込み編　　Ａ・制度に問題　　Ｂ・飛び込み（ハード）

・板、高分業制にする。
　板の踏み方、高の飛び出し方が違う。専門性を追求する。
　板　１０９、２０７、３０７、４０７、レベル難易率４．０に近い種目を飛ぶ
　高　１０９、２０７（２０９）、３０７（３０９）、４０７（４０９）

　回転力のある選手　　腕が頭上に伸びてから・・・板
　　腕が前に伸びてから・・・高
　動きを順次性ということからとらえていくと腕を引き上げるときに脚のパワーを全開にして回転につなげていく。
　逆に板の場合では腕が伸びた状態でも板の跳ね返りで脚のパワーを全開にできる。

Ａ・選手発掘制度を根本的に変える。
　中国は国家的規模で取り組んでいる、日本はいわば個人的規模に頼るところが多い。

Ａ・練習システムを根本的に変える。
　幼児期の練習を飛び込み教育づけにする。
　中国のように業余体育学校なるものを作ってカリキュラムを作成する。
　その際日本の制度には合わないものが出てくる。それを国家的取り組みとして認めていく

・コーチ・選手が・保護者・その他が夢を持てる取り組み

・勝ちたいという子を育てる

・コーチが技術的なことを論文で書き、発表する。毎年１回

Ａ・事業仕分けではないけれど「なぜ中国なんでしょうか？」「世界で３位くらいではだめなんでしょうか？」という質問が聞こえてきそうである。物事をやり遂げようとするときにはトップを目指さなくてはいけない。トップに視点・目があるから全体が見えてくる。そして今の練習に何が足りないのか、何をしなければいけないのかが見えてくる。トップに視点がないと世界で何位になったつもりでいる。ということにほかならない。世界が認めた世界１位を取らなければ意味がない。そこに視点がないと２位にも３位にもなれない。